



TITLE:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 130

AUTHOR(S):

CITATION:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 130. 京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 1963, 130: 17-24

ISSUE DATE:

1963-07-10

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/186907>

RIGHT:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会

水族館月報

NO. 130

1963. 6月 (7月10日)

録 事

6月9日 本会創立以来の岩尾繁要氏は、4日夕脳出血のため急逝された。氏は、白次町観光協会長・白次救済組合長として、町発展のため多くの功績を残され、本会発
展のために大きな功績を残された。まことに哀惜に堪えずつつしんで哀悼の意を表し、
御冥福をお祈りいたします。葬儀は9日14時より白次観光会館で行なわれ、故人の
盛徳をしのう人々が多く参り臨会であった。

業 務 概 況

◎ '6月の入場者数

○ 水族館窓口発売

区 分	大 人	中 人	小 人	小 計	累 計
個 人	4888	33	238	5159	28917
団 体	13945	0	73	14018	60323
小 計	18833	33	311	19177	88520

○ 交通系有委託発売

区 分	大 人	中 人	小 人	小 計	累 計
明 光 バス	23499	0	157	23656	133255
白 河 急行バス	1600	0	24	1624	11618
小 計	25099	0	181	25280	144873

○ 旅行斡旋業者委託発売

区 分	大 人	中 人	小 人	小 計	累 計
日本交通公社	1597	0	0	1597	6779
近畿日本ツツ	620	0	0	620	3376
日 本 旅行会	691	0	0	691	1539
西 海 交通社	59	0	0	59	840
日本通運KK	107	0	0	107	408
小 計	3074	0	0	3074	12942

合 計	47006	33	492	47531	246335
累 計	237833	1325	7177	246335	246335
添 料	旅館従業員他			572	738

◎ 6月の事業収入

(今年度累計)

観光券売上金	2,257,854	7,742,049
窓口発売	523,720	2,354,367
明光バス観光券	1,500,896	4,752,017※
台鉄急行バス観光券	139,400	299,180
日本交通公社クーポン	42,512	177,071
近畿日本ツリストクーポン	16,658	89,381
日本旅行会クーポン	17,946	39,396
南海交通社クーポン	13,758	19,731
日本通運KKクーポン	2964	10,906
総はがき売上金	34,360	106,550
予金利息	—	720
手数料	130,136	234,198
パンフレット松下	—	—
研究業績松下	—	—
魚類松下	12,100	13,200
雑収入	87	2,237
諸施設改善積立金より繰入	—	—
合 計	2,434,537	8,098,954

※ 明光バス観光券未収分 @30 17643枚 @27 12377枚
 @10 159枚 @ 9 15枚

◎ 6月の支出

本部経費

費 目	金 額	累 計	備 考
人件費	63386	132715	
旅 費			
会議費	12000	12000	
事務費	10600	12200	
福祉厚生費	11480	35390	
社会保険料			
積立金	1175548	1175548	
合 計	1273014	1367853	

水族館経費

費 目	金 額	累 計	備 考
人件費	516,815	1,093,569	
旅 費	6,740	15,440	
車 費	343,187	604,329	
管 理 費	—	38,794	
公課及保険費	16,760	61,925	
諸 経 費	136,190	431,527	
合 計	1,019,692	2,245,584	

実験所経費

費 目	金 額	累 計	備 考
旅 費	7,820	7,820	
研 究 費	—	40,600	
助 成 金	10,000	30,000	
刊 行 費	—	—	
役 務 費	—	—	
合 計	17,820	78,420	

支出合計	(今年度累計)
本部経費	1,273,014
水族館経費	2,245,584
実験所経費	78,420
臨時費	—
合 計	3,691,857

◎ 6月末現在高

前月よりの繰越	4,283,086
今月の収入合計	2,434,537
今月の支出合計	2,310,526
現 在 高	4,407,097

◎ 前年度との比較

	1963	1962	増 減
入 場 者 数	47,531	47,207	+ 324

水族館記事

- ◎ 1日 先月入槽のマトウダイは、生きた小アジを用いて、餌付けに成功した。
- ◎ 4日 3月5日入槽以来N.O.24水槽で客をおどろかせていた大カスザメは、水温上昇のため、ついに死亡。
- ◎ 10日 瀬戸より、マサバ幼魚300個体が入槽。J水槽へ収容の当初は壮観であったが、体表のすり傷がひどくなり、25日までに、相次いでたおれ、同槽の中、大型魚類に捕食された。
- ◎ 12日 前記マトウダイは、白点病にかかり、その治療薬を投入した直後に死んだ状態となり死亡。この魚は極めておなえやぶくわすかな親魚を母は最悪なことがあるので、今後、取扱いには細心の注意が必要である。
- ◎ 14日 北浜の地曳網よりマタゴトビエイ（体長80cm尾長170cm）が入槽、H水槽で人気を独占していたが、この大型水槽でも自由に泳ぎまわることができず、餌付きしないままに29日死亡。このような大型珍魚を長期間飼育展示するために、側面観覧窓つき大プールの設置が切望される。
- ◎ 22日 2ヵ月ぶりに塔島で潜水採集を実施。今冬の寒波で、長らく水族館から姿を消していたオトヒメエイ ナガウミ ヒバシヨウジなどの熱帯性本魚が入槽した。しかし、昨年の同季にくらべると、チヨウチヨウウオ ソラスズメダイなどの南方系の魚類は、はるかに数が少なく、逆にこれまで、水族館近海には極めて少なかった、内湾性のキヌバリ キュウセンがかなり多く認められた。
- ◎ 25日 神戸の熱帯魚店より、淡水産のダツの1種ニードル・コイツリシユ（16cm）が入槽、TF1へ展示した。海産のダツ サンマ サヨリ トビウオは、水族館での飼育が極めて難しく、このグループ（ダツ目魚類）が、水族館の盲点となっているので、それを埋める意味で、かなり貴重な存在であろう。ふだんは水面近くにほとんど静止しているが、捕食行動は実に敏捷である。餌は生きたメダカを1日に3〜5尾与えている。
- ◎ 白点病対策： 例年、梅雨期には白点病の被害に悩まされ、今年もオニ、オミ水槽室のほとんどが全水槽に発生を見たが、下記の対策を断行した結果、オニ水槽室の一部をのぞき、ほぼ完全に被害を喰い止めることができた。

6月末現在、マツカサウオ オキナヒメジ イシガキダイ ハマチ コロダイ セトダイ ミギマキ イロ チヨウチヨウウオ シマフグなど、本湖に定めて弱い種も健在である。

1. 早期発見 : 初期症状は昼間には発見しにくいので夜間に観察し、少しでも異常があれば処置（既報—塩酸キニーネ又はネグボン硫酸銅浴）する。
2. 水=水槽室各水槽は、開放式の併用を止め、魚類の収容密度に応じて、できるだけ長期間、単独循環を続ける。新しい海水を補充した場合は、必ず薬液を入れて病原虫を殺し疾病を予防する。
3. 新着魚類入槽のさいも必ず上と同様の処置による予防を実施。
4. 罹病魚（貴重種でないもの）の早期処分。
5. 玉網（特に死亡魚をとり上げたあと）の洗滌。

盛夏をひかえて、まだまだ気は許せないが、昨夏のような大被害は避けられる見込みである。

◎ 6月の採集作業（下記のほかに、実習生より、砂採集動物の入槽3回）

日時	採集場所	方法	人員	主な目的
3.8.11 12.15 16日午前	実験所北浜	地磯網に参加 ※カワ	1~2	砂地の魚類 中小型磯魚 マダコ
20日午後	駐車場南浜	磯釣	2	メジナ・ニシキベラ
21日朝	船揚場前	素潜り採集	1	カゴカキダイ
22日午後	塔島東水産	SCUBA	3	オヒメエビ・ヒバショウジ
24日	〃	〃	2	ネブツダイ類
30日	〃	〃	2	ベラ類、ヤギ類

◎ 主な採集水産名 : (☆印は37年4月1日以降はじめての入槽動物)

無脊椎動物 : ウミキノコ ハナヤギ アカヤギ ウミカラマツ ハナガサザン
ゴ オトヒメエビ ☆コノハガニ ハナイカ アオリイカ マダコ スナダ
コ ☆モクハチアオイ オオウミシダ オガウミ ラツパウミ トラフナマ
コ ニセクロナマコ

魚類 : ★マダラトビエイ カイワリ ネンブツダイ ★キンメモドキ ヒバショウゴ
クロメジナ ★ハナハゼ ギヌバリ ヒメギンポ イタチウオ イサ ニシギベ
エ カミナリベラ ニジベラ チヌ カゴカキダイ アサギハヤ ★ハマフダ
シマキンチャクダ ミノカサゴ。

◎主な購入水族名

魚類 : ★ツバクロエイ アカエソ マサバ ヒメジ ホウセギハタ コトヒ
キ イトヨリダイ ★シロアマダイ ゴシヨウダイ ハマフエフキ ウ
メイロ トラギス ササノハベラ ブダイ サバフグ アヤメカサゴ
★ニードルフィッシュ

◎6月30日現在、飼育中の動物は、総計314種2780個体以上で、その内訳は次の通り。このうち観覧水槽に収容展示中の動物は303種2670個体以上

カイメン類	1種	タモ類	5種	イカ類	1種
ヒドロ虫類	2種	カブトガニ類	1種	タコ類	1種
ウミトサカ類	3種	フジツボ、カメノテ類	4種	ウミシタ類	3種
ヤギ類	5種	エビ類	16種	ヒトデ類	9種
ウミエラ類	1種	ヤドカシ類	6種	クモヒトデ類	4種
イソギンチャク類	7種	カニ類	23種	ウニ類	11種
イシサンゴ類	4種	アメフラシ類	5種	ナマコ類	17種
ツノサンゴ類	1種	二枚貝類	12種	ホヤ類	2種
ハナギンチャク類	1種	巻貝類	21種	軟骨魚類	10種
ホウギムシ類	1種	ヒザラカイ類	2種	硬骨魚類	141種

◎6月の気象(09時観測)

爬虫類 4種

沖1水槽室(水温、比重はN0.24水槽)

	上旬	中旬	下旬
晴天日数	4	3	9
室温(°C)	21.2~25.0 22.4	20.8~25.5 23.6	25.8~27.5 26.7
水温(°C)	20.80~22.68 21.55	22.08~24.20 22.78	24.44~27.00 25.84
比重(°15)	22.50~24.40 23.72	22.95~25.26 23.96	24.43~24.92 24.72

新館 (水温)

H ₁ 水槽(°C)	$\frac{20.2 \sim 22.0}{21.5}$	$\frac{21.6 \sim 23.6}{22.3}$	$\frac{23.8 \sim 27.5}{25.6}$
T ₈ 水槽(°C)	$\frac{20.8 \sim 23.4}{22.4}$	$\frac{22.4 \sim 24.8}{23.0}$	$\frac{25.4 \sim 28.0}{26.7}$

取入口

水温(°C)	$\frac{20.62 \sim 23.42}{21.81}$	$\frac{21.84 \sim 24.02}{22.86}$	$\frac{25.02 \sim 28.26}{26.97}$
比重(15)	$\frac{23.20 \sim 24.71}{23.79}$	$\frac{23.34 \sim 25.07}{24.25}$	$\frac{24.53 \sim 25.07}{24.78}$

来 訪 録

6月5日 富山ヘルスセンター内山政男営業部長来館。『山での水族館経営が可能かどうか』について意見を求められた。

全日 大阪市役所健康保険組合原田朋三白浜寮長来館。白浜湯崎付近の海水浴場とその安全等につき話し合いをなす。

6月18日 大林組和可山出張所橋本音次郎主任斉藤省三商店知見晴夫技師並びに森裕技師水族館増築第2期工事見廻り等のため来館。

6月25日 東京大学東京天文台岡山天体物理観測所田中義男事務主任は付属の天文伝物館が国営移管となった場合のことにつき調査のため来館。

昭和38年7月10日(NO.130)

編集兼
発行者 宮 地 伝 三 郎

発行所 瀬戸臨海実験所振興会
和可山県 白浜町
瀬戸臨海実験所内
(Tel. 白浜温泉 515)